

Activities 3.3 Mind the gap!

- (1) peer assessment の一部を見て、学習者が中間言語の現段階と次の段階とのギャップに気付き、言語習得が起きている箇所を探す。
- (2) 学習者が互いの speaking の評価・向上のために、どのような方略を使用しているか考える。

(ex.) 2人の奨学金応募者から、どちらか一人を選ぶ (Swain, 2000)

G: Let's speak about this exercise. Did you read it?

S: Yes.

G: Okay. What are we supposed to do?

S: We have to speak about these people and ummm justify our position ... you know our decision ... our decisions about actions in ummm the past.

G: No. I think not just the past. We have to imagine our situation now. We have to give our opinions now.

S: So, for example, I choose Smit because he need it. No ... it's a condition. I would give Smit ... I would choose s/mit because he need the money. Right. I WOULD give ...

G: Needs it.

S: Yes, because he need it.

G: Yes, but no. He needs. 's', you forgot 's'. He needs.

S: Did I? Let me listen the tape. (Listens to the tape.) Yes ... yes. He needs. I have problem with 's'. Can you control ... your talking?

G: It's a big problem. I still must remember 'had had'. But we try.

S: Yes, we try. But I don't know.

G: We don't try ... you know we don't get better. We don't improve. We must practise to change old ways.

S: Okay. Maybe good idea to listen to tape after we each talk.

Activities 3.4 Designing portfolio work for self- and peer-assessment

- (1) 評価をポートフォリオと統合することの重要性 (e.g., 評価基準作成を通して生徒に学習目標を理解させる)

raditional	Portfolio
Measures student's ability at one time	Measures student's ability over time
Done by teacher alone; student often unaware of criteria	Done by teacher and student; student aware of criteria
Conducted outside instruction	Embedded in instruction
Assigns student a grade	Involves student in own assessment
Does not capture the range of student's language ability	Captures many facets of language learning performance
Does not include the teacher's knowledge of student as a learner	Allows for expression of teacher's knowledge of student as learner
Does not give student responsibility	Student learns how to take responsibility

コメント [YM1]: (2) タスクの目的を正しく理解しているか確認している

コメント [YM2]: (2) S がタスクの目的を把握し切れていなかったため、補足した

コメント [MY3]: 最初は"choose"と単純現在形を使おうとしていたが、この場合は断定しない (it's a condition.) ので推量の"would"を使うべきだと自分で気づき、修正した。

コメント [YM4]: (2) 三単現の s の誤りに対し、リキャストでフィードバックを与える

コメント [YM5]: (2) それでも間違いに気づけなかったため、修正フィードバックを与える

コメント [YM6]: (2) テープで自身の speaking を確認することで、誤りへの気づきを促進させる

コメント [YM7]: (1) 三単現の s が抜けていたことに気付き、言語習得が進む

## (2) electronic portfolio の実践例

### ■ スタディーノート: つくば市の学校で導入されているデジタルポートフォリオ

- ・ 小学校中学年~中学生と幅広い学習者を想定しており、様々な教科の学習活動に利用できる。
- ・ 振り返り学習の支援: 掘り下げて学ぶ、深く追及するといった学習では体験をとして学ぶことに加え、振り返りを通して学ぶことが重要である。
- ・ 表現と生徒間のやり取り: 自分の考え・知識・体験を表現し、生徒同士のやり取りを通して学習を振り返る
- ・ 学習支援機能: 表現にはノートやポスターという機能を、生徒間のやり取りにはメール、掲示板、データベースを使用する。テレビ会議のような即時性や派手さはないが、自分のペースで発言したり、他の生徒の発言をじっくり吟味できる。
- ・ インターネットにも対応: 他校、保護者、地域住民、一般ネットユーザーとも情報交換ができる。

### ■ エディア: 大学生向けのデジタルポートフォリオ

- ・ パーソナルポートフォリオ: 日々の研究、授業などを記録し、整理・分類することで自分の成長を振り返る。
- ・ グループ学習: コメント投稿機能があり、生徒間、教師-生徒間でグループ内での意見交換や活動の記録を共有できる  
→ 教職履修カルテなどにも利用されている (教育実習中の遠隔支援も可能)

### ■ my portfolio

#### ◆ 学生

- ・ 学習計画、キャリアプランを立て、自分の成長をマッピングする
- ・ 学習のために web 上でレジュメを複数記録する
- ・ ファイル、写真、ブログなどで到達度を示す
- ・ 家族、友人、教師などと共有するため、様々なメディアに富んだポートフォリオを作成する
- ・ 学習の経験を記録する

#### ◆ 教師

- ・ ポートフォリオを作成し、授業内容を配信する
- ・ 学生が情報化社会に備え、生き抜く手助けをする
- ・ 学習者の到達度にコメントし、評価をする
- ・ 授業や自身のキャリアのために、教師もポートフォリオを作成する
- ・ ポートフォリオや個人の学習計画がどのような学習の結果につながるか探究する

(cf.) 普段使っている moodle も electronic portfolio の一つ。また TOEIC・TOEFL の e-learning も当てはまり、問題のスコア、解くのにかかった時間、間違った箇所などを記録し、後で振り返ることができる。

### ■ electronic portfolio を授業にどう生かすか?

- ・ 自分のスピーキングを映像・音声で記録に残し、年間を通してどのように向上していったか振り返る
- ・ 各自のスピーキングの記録に対し、他の生徒や教師が評価をする (コメント機能、メール、掲示板など)
- ・ もらったコメントを分類し、今後の学習に生かす (言語形式に関するもの [発音など]、内容に関するもの)

コメント [MY8]: また SNS を利用することもできる。自分の学習記録をアップしたり、それについてコメントをほかの生徒・教師と共有できる。